

愛知県立芸術大学 平成 27 年度「教員による自己点検・評価シート」(自己評価)
記述についての報告書

愛知県立芸術大学 大学評価委員会

愛知県立芸術大学(以下、「本学」と記す。)では、「教員による自己点検・評価シート(以下、自己点検・評価シート)」を平成 21 年度より実施しています。年度当初に各教員(客員教授を除く専任教員)が各自、「研究活動」「教育活動」「大学運営」「地域貢献」について目標と計画を立て、当該年度末に自己評価をするものです。

「27 年度自己点検・評価シート」は、各教員が年度当初に「計画・目標」を記載し、それをもとに 28 年 2 月初旬に「実績・自己評価」を記入して提出しました。

以下は、27 年度の「教員による自己点検・評価シート」の報告です。

■美術学部

美術学部では専任教員(客員教授・育児休業 1 名を除く)46 名中 42 名の教員が「自己点検・評価シート」を提出しました(回収率 91.3%)。

・研究活動

各教員は「計画・目標」において、それぞれの専門分野における研究内容や具体的な制作・研究成果の発表(展覧会・学会活動等)・海外研修・受託事業・産学連携事業・研究論文・アートプロジェクトなどについて記述しました。「実績・自己評価」については、大半の教員(90%)が「計画どおり実行し目標を達成した」あるいは「おおむね達成した」とする評価をしています。反面、計画の遅延、研究時間の確保を今後の課題とする教員も数名いました。

・教育活動

各教員は「計画・目標」において、学部、大学院、他大学での授業科目を列挙して計画を示し、その内容と目標を記述しました。国際交流、大学間の交流協定に関係した授業、学外での実践的な授業など幅広い試みが多く見受けられます。「実績・自己評価」において、計画どおり実行し目標を達成したとして、9 割程度の教員が高い評価と中程度の評価をしています。ただ、研究活動と教育活動の時間配分の難しさ、委員会や会議など学内業務の多さから「学生と対面する時間が不足した」「課題あり」と記述した教員もいました。全教員が真摯に教育現場に臨んでいることが伝わってきました。

・大学運営

各教員は「計画・目標」において、担当する各委員会、役目などを記載しました。ほとんどの教員は複数の委員会を兼任し、委員会にまったく関わらない教員はありませんでした。「実績・自己

評価」において、計画どおり実行し目標を達成したとして、大半の教員が高い評価と中程度の評価をしています。多くの委員会を兼務している状況も明らかになりました。また、大学の改修に伴う施設整備、広報活動や国際交流など新規事業に関する委員会の役割が大きくなっているように見受けられます。

・社会貢献

各教員は、各種審査委員、学外講師・講演、展覧会企画・運営、サテライト講座、文化財団などの委員、ギャラリートーク（アーティストトーク）、ワークショップなど、様々な形で本学の教員として社会に関わり地域貢献に努めています。「計画」において具体的な記載がなかった教員は僅かですがありました。「実績・自己評価」において、9割以上の教員が高い評価と中程度の評価をしました。

■ 音楽学部

音楽学部では専任教員（客員教授を除く）36名中34名の教員が「自己点検・評価シート」を提出しました（回収率 94.4%）。

・研究活動

各教員は「計画・目標」において、各自の専門分野での研究内容や具体的な創作・研究・演奏会・学会活動・執筆・プロジェクトなどについて記述しました。「実績・自己評価」については、大半の教員が「充分におこなった」あるいは「おおむね達成した」とする評価をしています。専門分野が交流する場所として本学の様々な催しが役立っていることが、記載された研究発表、演奏会などの実績から読み取れます。各教員とも十分な研究時間を確保するために、時間の捻出に苦心している様子が伺えます。

・教育活動

ほとんどの教員は「計画・目標」において、授業科目を挙げて計画を示し、その内容と目標を記述しました。「実績・自己評価」において、計画どおり実行し目標を達成したとして、9割程度の教員が高い評価と中程度の評価をしています。ただ、委員会や学内業務の多さから、ことに教育環境の多様性や、新たな教育活動への取り組みを企図しつつ、達成半ばである、時間が足りなかった、とした教員もいました。実技指導が根幹となっている現場での教育の難しさを感じましたが、全教員が真摯に教育に取り組んでいることが読み取れました。

・大学運営

各教員は「計画・目標」において、担当する各委員会、役目などを記載しました。ほとんどの教員は複数の委員会を兼任し、委員会にまったく関わらない教員はありませんでした。「実績・自己評価」において、計画どおり実行し目標を達成したとして、大半の教員が高い評価と中程度の評価をしています。委員会業務が少しずつネットワークを活用した連絡形態に移行しているとは言え、相変わらず多くの委員会を兼務して大学運営にあたる状況が続いています。

- ・ 地域貢献

各教員は、コンクール審査委員、学外講師・講演、演奏会企画・実行委員、文化団体主催講座、ワークショップなど、様々な形で地域貢献に努めています。「計画」において具体的な記載がなかった教員が僅かですがありました。「実績・自己評価」において、8割以上の教員が高い評価と中程度の評価をしました。

本学の教員評価規程に則って、平成 28 年 3 月 17 日に開催された「平成 27 年度教員評価会議」において、「自己点検・評価シート」を主たる資料として当該年度の教員評価対象者が選考され、美術学部 15 名、音楽学部 11 名の教員が今年度の教員評価対象者として選出されました（評価対象者は全教員の 31.7%）。

この「自己点検・評価シート」の記入は平成 21 年度から始まり、7 年を経て本学教員の自覚的な教員活動への取り組みの中に定着してきました。各自が自身の活動を大学における職務に生かすために点検・評価をし、自己の向上と大学の質の保証に努めるという「教員による自己点検・評価」の大目的が達成されていると思います。